

## 第1回松本市教育振興基本計画策定委員会 会議録

- 1 開催日時 令和8年5月25日(月) 午前10時00分から午前11時45分まで
- 2 場 所 松本市役所本庁舎 大会議室
- 3 出席委員 委 員 荒井 英治郎 氏  
委 員 大久保 秀樹 氏  
委 員 相馬 露子 氏  
委 員 高山 智史 氏  
委 員 中田 安子 氏  
委 員 永塚 博 氏  
委 員 原 明芳 氏  
委 員 平林 文 氏  
委 員 宮内 かつら 氏  
委 員 吉原 寛 氏
- 4 事務局 曾根原教育長、赤羽次長、小西教育政策課長、竹内教育政策課係長、伊藤教育政策課主任

### <会議事項>

- (1) 委員長選出、委員長職務代理指名  
委員長に荒井英治郎氏を選出、委員長職務代理に吉原寛氏を指名
- (2) (協議事項) 第4次松本市教育振興基本計画の策定について  
小西教育政策課長が説明
- (3) (報告事項) 松本市の教育に関するアンケート調査の結果について  
竹内教育政策課係長が説明  
(委 員) 保護者と教職員の回収状況について、回収率が前回調査と比較して大幅に低い、何が原因か。  
(竹内係長) 調査方法に関して、前回調査では紙媒体の調査票を用いて、保護者には児童生徒を介して学校から配布・回収し、教職員には学校から配布・回収しました。今回調査では電子回答フォームを用いて、保護者にはHome & Schoolで配信し、教職員には学校から周知しました。配信等では他のメール等に埋もれて内容を見逃してしまい、紙媒体で配布される方が内容をよく確認されるということがあり、前回と比較して回収率が下がったと考えます。  
(委 員) 配布や集計などの事務効率性を考えると、電子回答での調査が現実的であるので、電子回答でも回収率が低くならないような工夫を検討してほしい。

#### (4) 意見交換

4名程度のグループに分かれて意見交換を実施

##### (グループ1)

- ・ 学校に関する情報共有について  
一定期間での学校開放により、保護者や地域の様々な人が子どもの様子を見ることで、子どもたちが落ち着いた事例。授業参観は先生も準備をし、子どもも緊張しているため、日常により近い姿を見てもらえるのが良い。
- ・ AIやICTに関して  
保護者や教員が、どう利用すべきかよく理解していない中で、子どもがどんどん利用している。便利・簡単すぎることで、忍耐力、考える力、危機感知能力などが低下しているのではないか。感情を持たないAIとばかり接していると、感情をうまくコントロールできなくなるなど、対人コミュニケーションに影響があるのではないか。
- ・ 自然体験や人との絆づくり  
AIやネット上だけでは得ることが難しい、自然に触れる体験、人との違いを理解・体験することが重要で、積極的に進めていくべきではないか。広い視野を得られる、新しい刺激を得るような経験をしてほしい。

##### (グループ2)

- ・ 地域での子どもの活動  
地域での遊び場や、異年齢での遊びや活動の機会が減っているのではないか。夏休みなどに地域での体験活動などが行われているが、参加している子どもと参加していない子どもの体験格差が生じている。そういった活動の体験格差は、自己有用感の低下にもつながっているのではないか。子どもが地域の行事などの企画運営に参加することも、子どもの成長につながる。
- ・ 学校と地域のつながり  
学校外での、博物館や公民館などと連携した様々な体験活動を行うことも大切だが、授業数の制約や学校、保護者の理解が必要といった課題もある。体験活動をコーディネートする人的支援も有効ではないか。  
重要な課題は、保護者や地域も学校現場の課題を理解し、一緒になって考え、協力して取り組むことで、学校を孤立させないことも大切ではないか。
- ・ 保護者の学びや家庭環境について  
保護者が忙しく、教育や地域に興味関心を持っていないのではないか。興味関心を持ってもらえるよう、情報発信や気運の醸成が必要。第三の居場所が求められている現状は、保護者の働き方や家庭環境の変化も関わっているのではないか。

(閉 会)